

The logo for 'FREE THE CHILDREN' is displayed in white, bold, uppercase letters on a blue rectangular background. The text is arranged in two lines: 'FREE THE' on the top line and 'CHILDREN' on the bottom line. The background has a slight notch on the left side.

**FREE THE  
CHILDREN**

**2026年度 第22期 総会資料**

**2025年1月1日～12月31日  
事業報告書**

特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062東京都世田谷区南烏山6-6-5安藤ビル3F

TEL : 03-6321-8948

Email: info@ftcj.org

URL : <https://www.ftcj.org>

## 1. 2025年度 事業を実施して

2025年度、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、国内外で子ども・若者の声を社会に届けるための取り組みを一層進めた一年でした。こども基本法の施行を受け、子どもの意見を聴くことが国や自治体の責務となった今、私たちは全国の自治体と連携し、子どもの意見聴取のための研修や、実際に子どもたちから声を聴く取り組みを数多く実施しました。

こうした活動を通じて、子どもの声を丁寧に聴き、受け止め、地域の計画や事業に反映していくことの意義を改めて実感しました。一方で、子ども自身が「声をあげてもいい」と思えなかったり、自分の意見が社会に影響を与えるという感覚を持ちにくかったりする現状も見えてきました。子どもの声はまだ十分に聴かれていない社会だからこそ、大人が環境を整え、子どもが安心して意見を表明できる場をつくる努力が必要であることを痛感しています。

また、戦後80年という節目の年に、平和や社会課題に向き合いアクションを起こした子ども・若者が集う「チェンジメーカー・ミートアップ」を全国3か所で同時開催できたことも、大きなハイライトとなりました。世代を超えて学び合い、励まし合う姿に、未来への希望を強く感じました。

国際協力事業では、コンゴ民主共和国で収入向上を目的としたヤギ配布事業の開始を予定していましたが、現地ではM23による暴力が激化し、人々が避難を余儀なくされるなど、日常生活すらままならない状況が続きました。そのため、当初の計画を変更し、食料配給を中心とした緊急支援に切り替えて実施しました。世界各地で紛争が続くなか、戦争が子どもたちの生活と未来を奪っている現実を前に、私たちは「戦争を止めなければならない」という思いを一層強くしました。そして、日本にいる私たちにも、国内外でできる行動があることを改めて考えさせられる一年となりました。

2025年度の活動を支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。子どもや若者が自らの声と行動で社会を変えていく力を信じ、その歩みに寄り添い続けることが、私たちフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの使命です。これからも、子どもが「世界は変えられる」と信じられる社会の実現に向けて、皆さまとともに歩んでまいります。

代表理事 中島早苗

## 2025年度 事業活動報告

### 1) 子ども主体事業

#### ◆事業の目的と役割 ・ 活動内容

子ども達が自ら世界の子どもの権利を守るため、主体的に活動する機会の提供とサポートの実施

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
FTCJアンバサダー活動 (旧子ども代表委員)	<p>下記の3つを子どもアンバサダーの役割として設定し、2025年度の子どもメンバーに公募した。</p> <p>①自らのアクションや「子どもには世界を変えるチカラがある」というFTCJの理念や自身の活動を、SNS、ブログ記事、学校の掲示や行事、イベント開催などで月に1回以上発信する。</p> <p>②子どもメンバーの代表として団体の総会に議決権をもって参加する。団体運営について意見のある場合は、事務局に提言を行う。</p> <p>③希望者は、子どもメンバーのためのイベントや活動を開催し、子どもファシリテーターとして全国の子どもメンバー同士を繋ぐ活動を行う。</p> <p>2月 2024年度アンバサダー 文章の書き方講座 3月 2024年度総会・意見交換会に出席 5月 コンゴについての勉強会実施 7月 ウェルビーイング研修 9月 旧アンバサダー振り返り、引継ぎ 10月 2025年度アンバサダー9名が仮就任。顔合わせミーティング 10月 画像投稿作成研修 10月 文章の書き方講座 10月- 研修内容をもとに、毎月の発信活動を開始 11月 発信活動の実施と、内容の共有ミーティング 11月 ファシリテーター研修 12月 9名が正式に就任。 12月 発信活動の実施と、内容の共有ミーティング 1月 発信活動の実施と、内容の共有ミーティング 1月 アンバサダー企画メンバー始動</p> <p>▼2024年9月～2025年8月 子どもアンバサダー13名 ※当時の学年 鈴木紗蘭(中学2年生)、吉田日月生(中学2年生)、末木花歩(中学2年生)、山口清崇(高校1年生)、佐尾山こころ(高校1年生)、吉川美哉(高校1年生)、大久保ゆに(高校1年生)、今川つかさ(高校2年生)、窪寺柚月(高校2年生)、シクアラチ旅勇(高校2年生)、坂口くり果(高校3年生)、吉田朱雀(高校3年生)、小泉陽詩(高校3年生)</p> <p>▼2026年10月～2026年4月(継続希望者は9月まで) 子どもアンバサダー9名 鈴木紗蘭(中学3年生)、須藤彩希(中学3年生)、森垣いろ花(中学3年生)、館森菜七(高校1年生)、樋口楓(高校1年生)、山口清崇(高校2年生)、三ツ橋佑里乃(高校2年生)、池田惺惺(高校2年生)、岩田桃(高校2年生)</p>	通年	全国	22人	2,000
チーム活動	<p>フェアトレードチョコレート販売を通して、海外支援事業の寄付金を集める「フェアトレードチョコレートプロジェクト(略称チョコプロ)」を実施した。メンバーは1年ごとに公募し、子ども自身が商品名や価格の決定し、学校やイベントでの販売に取り組んだ。</p> <p>▼活動内容 1月 オンライン販売開始 2月 せたがや国際メッセや各自学校で販売 3月 超文化祭で販売 4月 多摩ファミリーフェスタで販売 5月 フェアトレード・ラベル・ジャパン渋谷展示で販売 →合計788個販売、106,065円をコンゴ民主共和国南キブ州生計支援事業に寄付。 参加メンバー20名</p> <p>9月 継続メンバー会議、新メンバー募集 10月 商品名・価格・入荷数決定 11月 せたがや国際メッセや各自学校で販売 →参加メンバー29名</p>	通年	全国	49人	1,115

## 2) 子ども活動応援事業

### ◆事業の目的と役割 ・ 活動内容

1. 国内の子どもや若者をチェンジメーカーとして育て応援する事業。国際問題や国内の社会課題について学び、問題を解決するためのアクションを企画・実施に取り組めるよう育成や支援をする。
2. 子ども達が自ら世界の子どもの権利を守るため、主体的に活動する機会を提供し、その活動をサポートする。

### ◆助成協力：大東建託グループみらい基金(テイク・アクション・キャンプ、We are the MOVEMENT)

デロイトトーマツ ウェルビーイング財団 (ティーンボイスプロジェクト)

日本財団 (子どもの権利条約フォーラム全体会子ども企画)

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
子ども活動家育成	<p>▼テイク・アクション・キャンプの実施</p> <p>日本にいる子どもや若者が社会課題を知り、その解決に向けて自らがアクションを起こし、より良い世界のために活動するためのノウハウを学ぶ場を提供した。</p> <p>夏(8月)：4日間プログラムを実施 47名参加 冬(12月)：2日間プログラムを実施 16名参加</p> <p>※経済的な課題を抱える家庭の子どもへのスカラシップ制度(無料招待)の実施については、国内子ども支援事業(5)にて別途報告</p>	夏8月 冬12月	夏 国立中央青少年交流の家  冬 高尾の森わくわくビレッジ	63名	2,480
	<p>▼次世代リーダー教育インターンシッププログラム</p> <p>子どもたちが安心してできる環境を作り、意見を引き出すファシリテーターを育成した。</p>	2月～ 12月	オンライン 国立中央青少年交流の家、高尾の森わくわくビレッジ	16名	1,368
	<p>▼SDG4教育キャンペーン政策提言を行う子どもや若者育成</p> <p>SDG4教育キャンペーンを通じて、全国から集まった18名の子ども・若者が政策提言に必要な知識と視点を身につけられるよう育成し、政党や省庁との意見交換の機会を創出した。</p>	3月～8月	オンライン、対面(主に東京)	18名	2,500
	<p>▼Every Child's Voice(ティーンボイスプロジェクト)</p> <p>昨年度に引き続き、新型コロナウイルスを子どもや若者自身が振り返り調査し提言をできるようコンソーシアム(共同事業体)を国立成育医療研究センターと一般社団法人Everybeingと共に活動。8月25日に東京都内にてこれまでの活動家らの学びと今後の活動の視座をとりまとめたイベントを実施した。また、こうした学びをオンラインで発信できるようとりまとめた。</p>	1月～ 12月	東京、オンライン	16名	1,500
メンバー活動サポート	<p>・子ども活動応援</p> <p>メンバー登録をした子どもや若者へイベントや活動の情報を定期的に流したり、電話やメールでの相談や質問に対応し子どもメンバーが主体的に活動できるようサポートを実施。コ月1でオンライン・事務所でメンバーが集える場の提供と、オンラインで活動相談ができる場も実施した。</p> <p>▼おしゃべりナイト(オンライン)の実施</p> <p>メンバーの質問や悩みに応えたりメンバー同士の交流を図るための定期的な交流イベント</p> <p>▼オフィスボランティアデーの実施</p> <p>ボランティア作業をしながら、メンバーの質問や悩みに応えたりメンバー同士の交流を図ったりするための定期的なボランティア&amp;交流イベント</p> <p>▼オンライン活動相談会</p> <p>社会課題の解決のために行動を起そうとしている子どもメンバーが、活動に関する相談や悩みを話すことができる場</p>	通年	主に事務所	全国のメンバー 1,500人	1,000
	<p>15件のアクションが採用され、計33名の子ども・若者がプログラムに参加し、それぞれが自ら発案した活動を行いました。6件が個人、その他は2人以上での参加となりグループ参加が増えました。開催したイベントへの参加者は計539名となり、過去最多となりました。</p>	1月～ 12月	オフライン およびオンライン	539人	1,450
スタディツアー	<p>日本の子どもや若者がFTCJの国際協力の現場を訪問し、支援先の子どもと交流したり、国際問題について考えたり、NGOの活動を学び、自分にできることを考えられるようプログラムを提供。ノートルダム女学院高校の高校生に対してもフィリピン研修を行った。</p>	3月、8月	インド・コルカタ、フィリピン・マニラ及びオロロンガボ市	49名	4,000

#### 4) アドボカシー事業

##### ◆事業の目的と役割 ・ 活動内容

目的：国際問題や国内の社会課題、子どもの権利、ウェルビーイングについての理解を広げ、子どもをはじめ多様な人々が学びを行動につなげることで、誰一人取り残されない世界の実現に向けた社会的変革を促すことを目的とする。

内容：

- ・ 出前授業・研修・子どもの意見聴取：156回実施（対面・オンライン形式）・対象人数：11,863人
- ・ FTCチェンジメーカー教育プログラム(教材開発・全国展開・キャンペーンキット開発・既存教材改定)
- ・ 出版、資料作成
- ・ 物販（フェアトレードチーム）
- ・ イベント
- ・ ニュースレター・メールマガジン発行、ホームページ構築・更新
- ・ 事務所訪問や問合せ対応

◆助成協力：大東建託グループみらい基金、連合・愛のキャンパ、日本財団

##### ・ 出前授業・研修・イベント実施活動

日時	講演先（学校・企業・団体）	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	講演テーマ内容	事業費（千円）
2025年 1月～12月	学校（小・中・高校・大学・その他） 55ヶ所	全国	7,459	国際理解教育、国際国内問題・キャリア教育・人権教育・ウェルビーイング・リーダーシップ・チームビルディング	5,562
2025年 1月～12月	自治体、行政（こども家庭庁含む）など 67ヶ所	対面・オンライン（全国）	3,037	人権教育、ファシリテーター、ウェルビーイング	
2025年 1月～12月	団体、企業、他組織主催イベント、活動報告会など FTCJイベント等での講演 34ヶ所	対面・オンライン（全国）	1,367	国際問題・国内の社会課題・キャリア教育・人権教育・ウェルビーイング・リーダーシップ	

##### ・ ファシリテーター養成講座、子どもの意見聴取、子ども会議運営など

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	事業費（千円）
自治体との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こども家庭庁主催：こども意見聴取ファシリテーター養成講座の講師：9回務める。意見聴取サポートも実施。</li> <li>・ 子ども会議のコーディネーター・伴走 5団体</li> <li>・ 自治体子ども向け権利イベント 企画登壇 8回</li> <li>・ 講演会・研修開催 35組織</li> <li>・ 権利条例冊子の監修 2つ</li> </ul>	通年	全国	自治体・団体の責任者など(人数は教材・出前授業に含む)及び、北海道、青森県、仙台市、東京都、世田谷、渋谷、川崎市、新潟市、愛媛県、熊本市の主に小・中・校生（約30,000人）	4,000
他組織との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立成育医療研究センター</li> <li>・ ソシオテック株式会社</li> <li>・ 三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング</li> <li>・ YMCA</li> <li>・ 教育委員会 複数</li> </ul>	通年	全国		

##### ・ FTCチェンジメーカー教育プログラム(教材開発・教職員対象プログラム・キャンペーンキット・教材改定)

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	事業費（千円）
教材開発・改定	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子どもの権利チケッット・カードゲーム</li> <li>②子ども兵士・コンゴ民主共和国</li> <li>③FTCチェンジメーカー教育プログラム更新</li> <li>④アイスブレイク集</li> </ul>	通年	東京事務所	教職員・自治体職員、及び全国のこどもなど 12000人	4,200
教職員対象プログラム	教職員など学校関係者や青少年育成団体向けに ①メールマガジン発行 ②相談対応	通年	全国	教職員・団体の責任者など 100人	300
キャンペーンキット	年間行事と合わせ、キャンペーンキット活用を促進 学校別オリジナルキット作成・活用200冊	通年	全国	国内外の人々 約2,000人	500

##### ・ 出版、物販、広報、ニュースレター・メールマガジン発行、ホームページ構築・更新

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	事業費（千円）
出版	他組織と連携し、学校教育や子どもの権利に関する書籍への執筆	通年	全国	教育関係者、一般	300
物販	フェアトレード商品や出版物の紹介、それに関する資料作成と仕入れ、販売など	通年	東京事務所	子ども、一般	1,200
ニュースレター・ アンニアルレポート発行	2024年度アンニアルレポート発行 サンクスレターの発行	5月 12月	東京事務所	各号750部 印刷	500
メルマガ発行	月に2回発行、臨時メール発送年6回	通年	東京事務所	国内外の人々 約7,000人	500

ホームページ更新・作成	子ども向けサイト、団体サイトリニューアル 1日平均400view程度アクセスあり	通年	東京事務所	国内外の人々	1,500
-------------	---	----	-------	--------	-------

・問い合わせ及び事務所訪問対応

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
問い合わせ対応	基本オンラインで対応し、希望者のみオフィスでの訪問体を実施。団体説明等。	通年	東京事務所	40	100

### 3) 外部ネットワーク

#### ◆事業の目的と役割 ・ 活動内容

様々なセクター、組織とつながってネットワークを構築、協働しFTCJのビジョン、ゴールを実現することを目指す。

<2025年度参加・構築したネットワーク>

・JNNE（教育協力NGOネットワーク）：開発途上国の子どもへの教育支援を行っているNGOによるネットワーク。登録団体間での情報交換、勉強会を実施、外務省との意見交換や政策提言などを行っている。世界の全ての子どもへの良質な基礎教育提供を目指し世界のEFA（万人のための教育）運動とつながって国内でのアドボカシーや政策提言などのキャンペーン活動をしている。

・児童労働ネットワーク（CLネット）：児童労働の廃絶に向け、勉強会、キャンペーンなどを展開。児童労働問題に取り組むNGO、労働組合、その他非営利組織、個人で構成されており、FTCJは運営委員団体として参加。

・広げよう！子どもの権利条約キャンペーン：子どもの声を政策決定者に届けることを目的として「子どもメガホンプロジェクト」を開始。

FTCJからも子どもメンバーが複数参加し、国会議員との対話に参加。

・フェアトレードタウン世田谷推進委員会：世田谷区をフェアトレードタウンに認定されること目指し設置されたネットワーク。FTCJ代表の中島が理事を務めている。

・その他非営利組織への会員登録や他団体との協力

団体のビジョンを達成し、より良い組織運営や社会問題に取り組む組織との情報交換のため新公益連盟への加盟や関西NGO協議会、日本NGOセンターなどのネットワーク、SDGs市民社会ネットワークに参加した。

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
JNNE	<p>▼SDG4教育キャンペーン2025事務局及び子どもユース育成活動：「SDG4教育キャンペーン2025」の事務局を担い、政党への教育政策アンケートと市民投票、政策提言のため18名の子ども・ユースを育成。5100名から集まった声を国会議員や関係省庁へ届け、意見交換を行った。さらにTICAD9の公式イベントで提言を発表し、教育の未来に向けた子ども・若者の声を国内外に届けた。</p> <p>▼JNNE実行委員活動：すべての人が教育を受ける権利を保障することをめざし、国際的に教育協力に取り組む団体が加盟する「教育協力NGOネットワーク（JNNE）」において実行委員団体を担い、情報交換・ネットワーク形成、国内外の教育協力に関する調査研究や能力強化研修、政策提言やキャンペーンを実施</p>	通年	全国 オンライン	5,100	3145
CLネット	<p>「ストップ！児童労働 キャンペーン2025」を主催し、児童労働問題の意識啓発を行った。</p> <p>展開内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインイベント開催</li> <li>・レッドカードアクション</li> <li>・Twitterフレームを活用した児童労働・SDG8.7に関する周知</li> </ul>	通年	全国	—	500
広げよう！子どもの権利条約キャンペーン、その他子どもの権利関連ネットワーク	<p>国連子どもの権利条約制定30年の節目の2019年に子どもの権利保障を目指しNGOでネットワークを設立。FTCJは実行委員として関与している。子どもメンバー等とともに「子ども基本法」が社会に根差し、子どもの権利が実現するための活動や子どもの声を聴くイベント開催、その重要性を考える啓発活動に取り組んだ。12月には鹿児島での子どもの権利条約フォーラムに参加し、2026年度に開催予定の岐阜でのフォーラムに向けて準備を行った。</p>	通年	全国	2,000	3,770
フェアトレードタウン世田谷推進委員会	<p>世田谷のフェアトレードタウン認定を目指して世田谷区民及び世田谷区にある団体などでネットワークを構築。2025年4月末にて解散し、フェアトレード情報プラットフォーム「#フェアトレード世田谷」に移行。本プラットフォームを利用して、2025年10月26日「せたがや産業フェスタ2025（物販）」参加。ほか、スタディツアーの広報などにSNSやメールリストを利用した。</p>	通年	世田谷区	10,000	200
にいがたNGOネットワーク	<p>新潟県の国際協力や国際交流の活性化のためのNGOを中心としたネットワークに、FTCJとして参加。ニュースレターやウェブサイトを通じて国際協力に関する情報を発信した。</p>	通年	新潟市	新潟県内の人々100	600

## 5) Free The Childrenプログラム（自立支援事業・緊急支援事業）

- ◆目的：貧困や紛争などによって権利を奪われ、困難な状況に置かれている開発途上国（フィリピン、インド、ケニア、コンゴ民主共和国など）の子どもたち、そして日本国内の子どもたちが、心身ともに健やかに過ごし、自らの力で未来を切り拓けるよう支援することを目的とする。
- ◆活動内容：上記の地域において、子どもたちが貧困や差別から解放され、自立へと歩むための包括的な支援事業を展開する。また、災害や紛争などで深刻な被害を受けた地域に対しては、緊急支援および復興支援を迅速に実施する。
- ◆助成・企業寄付協力：大東建託グループみらい基金（国内）、公益財団法人ウェスレー財団（インド）、サンタパレード東京（フィリピン）、㈱サックスパーホールディングス（国内）

### 海外事業（国際協力）

#### <フィリピン支援事業>

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
先住民族の子どもへの教育支援	ミンダナオ島の先住民族の村に暮らす子どもたちの、教育環境整備に向けた支援事業。小学校へのトイレ設置と修繕事業を、現地パートナー団体KPACと共に実施。教員用トイレ1つと、児童向け男女1つずつ計3つのトイレを設置し、保健衛生教育についても実施した。	通年	ミンダナオ島	先住民族の子ども約45人+教員4人	200
ブレダ基金を通じた子ども支援・貧困地域への自立支援	フィリピン・ルソン島サンパレス州オロンガポ市で活動する現地パートナー団体ブレダ基金を通じた、性的虐待・搾取を受けた少女、路上や刑務所から救出された少年、先住民族アエタの貧困コミュニティの自立支援事業。フェアトレード商品の収益は、ブレダ基金が運営する子どもたちの保護施設に寄付。先住民族アエタの貧困コミュニティにある小学校で給食支援を行うために、ベンパルサポーター事業とクラウドファンディングを実施。	通年	ルソン島を中心としたフィリピン	救出保護された子ども100人、アエタ民族の子ども160人	480

#### <インド支援事業>

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
西ベンガル州 CCD支援事業	現地パートナー団体CCDを通じて、インド・西ベンガル州の貧困家庭で暮らす子どもが学校に通い、栄養ある食事で健康に暮らせるよう支援する事業。貧困地域への収入向上支援と、子どもの権利が保障されるためのワークショップを、現地パートナー団体CCDを通じて実施した。	通年	西ベンガル州	西ベンガル州コルカタ周辺貧困地域の40世帯	1,000
マハラシュトラ州ムンバイ郊外貧困地域の子ども教育支援	マハラシュトラ州の州都、ムンバイ郊外にある貧困地域の子どもへの教育支援について、現地を訪問し事業の経過をモニタリングした。現地パートナー団体NEWTと、貧困地区に暮らす子どもを対象とした、新たな学校建設事業について協議を進めた。	通年	マハラシュトラ州	1年生～10年生まで375人	400

#### <ケニア支援事業・コンゴ支援準備>

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
ケニア先住民族支援事業	ケニアナロック群南ナロック県のマサイ民族やキクユ民族に対して、コロナ感染を予防・治療するためのモバイルクリニックを通じた支援を実施。特に、子どもや妊産婦への健康向上・維持のための保健医療支援を行った。また、女子教育への理解が低い地域があるため、啓発を行うとともに、貧困家庭の女子が質の良い中等教育を受けられるよう奨学金支援を行い、女子への中等教育支援に注力した。	通年	ケニアナロック群南ナロック県先住民族コミュニティ	約1200人	300
コンゴ民主共和国支援	現地パートナーのミシェル・チクワニネ氏及び協力団体であるPRWOPと共に、キブ州の貧困農村コミュニティにて収入向上のための農業研修事業を行う計画をしていたが、紛争が激化したため緊急支援として食糧や物資65万円分の支援を行った。紛争下ではあるが、農業研修事業再開に向けて農地を購入した。	通年	コンゴ民主共和国キブ州	20世帯	700

### 国内事業

#### <国内の子ども支援事業>

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
経済的困難を抱える家庭の子ども支援（スカラーシップ制度）	経済的な理由などでキャンプなどのプログラムへの参加をあきらめざるを得ない小学5年生～18歳を対象に参加費無料とし、交通費の全額補助を行い、支援を行った。夏休み4日間は国立中央青少年交流の家（静岡県御殿場市）にて6名、冬休みは1泊2日が高尾の森わくわくビレッジ（東京都）にて対面にて6名を対象に実施した。 ※子どものサポートスタッフ育成はアドボカシー事業に含む	8月、12月	国立青少年の家、高尾の森わくわくビレッジ	16人	2,145
経済的困難を抱える家庭の子ども支援（入学・入園・進級応援金）	ひとり親家庭や新型コロナウイルスの影響を受けた世帯、その他様々な理由で家計がピンチな状況にある世帯で、2025年2月に入学・進級する3人以上の子育て家庭で、新学期の準備金の支援が必要な世帯を対象に支援金を贈る「応援金サポート」を実施。受付開始後すぐに500名以上の方から応募があり80世帯の方に応援金の贈呈を行った。	2月～4月	全国	80世帯（240人以上）	1,400

## 6) Change Makers Fes事業

### ◆事業の目的と役割 ・ 活動内容

Change Makers Fes (チェンジメーカー・フェス) は、人や地球のことを考え、ボランティア等に取り組んでいる25歳以下の子ども・若者を無料で招待し、彼らのアクションを祝い、これからの活動にエールを送るライブイベント。

#### 【目的】

- ①参加者の子どもや若者が、多様な立場に置かれる人々や異なる価値観を理解し、一人ひとりが尊重されることの大切さを感じ、彼らの自己肯定感を高める。
- ②参加者の子どもや若者が、SDGsに紐づく国内外にある社会問題を知り、それらの問題と自分自身が繋がっていることに気づき、自分ができることを考え、行動できる素地を養えるようにする。
- ③参加者の子どもや若者が、自分が動くことでより良い変化を起こせると感じ、彼らの自己効力感を高める。

### ◆助成・協賛・後援・協力

助成：大東建託グループみらい基金

協賛：株式会社パワープロジェクト、ピーダブリュアールスポーツ株式会社、株式会社勤労食

後援：熊本市、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、独立行政法人 国際協力機構 (JICA)、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター、東京ボランティア・市民活動センター、認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター

協力：公益社団法人 ガールスカウト日本連盟、公益財団法人 日本YMCA同盟、広げよう！子どもの権利条約キャンペーン、Lasting Peace Project、一般社団法人 OSAKAあかるクラブ、公益財団法人大阪YMCA、フェアトレードシティくまもと推進委員会

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
Change Makers Fes2025	<p>【イベント名】チェンジメーカー・ミートアップ2025 ～集まれ、まだ見ぬ仲間たち。～</p> <p>【日時】2025年12月21日(日) 【会場】大阪(大阪YMCA)、熊本(熊本市国際交流会館)、オンライン(Zoom) 【参加者数】25歳以下114人+26歳以上約40人</p> <p>【対象】 社会をより良くしたいという思いのもと、平和、貧困、教育、国際協力などの社会課題に対して、ボランティア活動や探究学習、発信など何らかのアクションを行っている25歳以下の子ども・若者。</p> <p>【実施内容】 認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、社会課題に向けて行動する25歳以下の子ども・若者114名が集う交流イベント「チェンジメーカー・ミートアップ2025」を、大阪・熊本・オンラインの3拠点をつないで開催した。本イベントは、2021年より継続してきた「チェンジメーカー・フェス」から発展した取り組みで、5年目となる今回は、参加者一人ひとりが主役となる交流型プログラムとして実施。「Peace start with us ～平和は私たちから始まる～」をテーマに、U25チェンジメーカーによるスピーチや、土屋アンナさん、わたなべちひろさん、AIさん、アップダウン、水野泰平さんらゲストのメッセージ、特別プログラム「原爆体験伝承漫才」を通じて、平和や国際課題について多角的に考える機会を提供した。会場別の対話型ワークショップや交流会では、参加者同士が互いの活動や思いを共有し、仲間とつながる時間を創出。世代や地域を超えて想像力とアクションの力を確認し合い、「一人ひとりの行動が社会を変える力になる」ことを実感できるイベントとなった。</p>	通年	大阪/熊本/オンライン(東京)	150人	3,699

## 7) 管理部

管理・その他、この法人の目的を達成するために必要な事業に関する報告

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費(千円)
翻訳	事業の運営に関係する資料を日・英に翻訳。	通年	東京	5	10
研修受講	円滑な組織・事務局運営のため下記の研修を受講	通年	東京	10	0
個人情報管理	アクセスのデータを構築デザインし、メンバーや協力者などの個人情報を整理し管理を行った。	通年	東京	3	100
ファンレイジング	サポーター増強のためのWEBサイトの更新、報告会の実施、googleアナリティクスの運用などを実施 マンスリーサポーター増加のためにキャンペーンを実施した。	通年	東京	3	350
広報・ブランディング	広報が担当となり、計画的な広報を実施	通年	東京	3	630
問い合わせ対応	メール、電話、FAX、郵送にて事務局に届く問合せや連絡に対応。対応例：事務所訪問、出張講演調整、教材や物販の注文、団体など組織からのアンケートへ返答、子ども、大学生、社会人からの質問返答、メンバー希望、団体への質問返答など	通年	東京	3	300
会計	組織の透明な会計のための団体に関する資金の流れを管理し帳簿を付けるなどの業務を実施。	通年	東京	2	1170
理事会運営・管理	事業を円滑に実施するための理事会の運営。	通年	東京	11	30
その他	事務所運営管理、什器管理など。	通年	東京	5	16

### 【活動のご協力】

◆助成協力：東京都 正規雇用等転換安定化支援助成金

### 【理事兼任】

中島早苗：代表理事 全事業  
 原元 望：副代表理事 全事業  
 出野恵子：事務局長 アドボカシー事業  
 伴野保志：個人情報管理システム構築  
 藤井裕子：チェンジメーカー・フェス、関西での活動  
 松下耕二：チェンジメーカー・フェス

### 【事務局体制、役割報告】

長沼ななみ：子ども主体・子ども活動応援・アドボカシー・Fes  
 板倉香子：会計・総務・国内子ども支援  
 菅原萌子：子ども主体・子ども活動応援・アドボカシー  
 木村千夏：アドボカシー・広報  
 中谷郁恵：海外事業（国際協力）・アドボカシー事  
 鈴木悠仁子：アドボカシー・海外事業（国際協力）  
 鈴木洋一：子ども活動応援事業、外部ネットワーク  
 広瀬太智：子ども主体・子ども活動応援・アドボカシー  
 田中理帆：渉外、ブランディング  
 佐藤美紗子：ブランディング  
 竹内拓海：チェンジ・メーカーフェス  
 安岡彩香：スピーカー・広報

### 【2025年度インターンご紹介】

子ども家庭庁、子どもの権利条約フォーラム：森垣穂香  
 海外自立支援事業：マーティ・テローナ

### 【事務局ボランティアご紹介】

S.S：事務局運営・広報補佐・ファンレイジング・翻訳・海外支援事業・教材開発・ウェルビーイング事業ほか  
 本川優希：スピーカー・ファシリテーター

メディア掲載一覧

2025年1月～12月にメディアなどで配信・紹介されたFTCJの活動です。(人物の肩書・役職・苗字は掲載当時のものです)

時期	メディア配信・媒体名	内容
通年	ONE WORLD English Course (教育出版・中3英語教科書)	FTCを創設したクレイグ少年の物語が巻末に掲載されています。
2025.2.14	Seventeen (株)集英社・WEB版)	本年のチョコレートプロジェクトをご紹介いただきました。
2025.3.6	コープ自然派事業連合「ポストイ」(第51号)	当団体理事・関係者が執筆した「こども基本法 こどもガイドブック」(子どもの未来社)を特集記事で紹介いただきました。
2025.3.14	東京新聞	第55回博報賞(独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動領域)受賞団体として紹介記事を掲載していただきました。
2025.4.25	Acid Canvas	動画 記事□イリピンの児童労働(性搾取)問題に関するドキュメンタリー動画の取材に協力致しました。
2025.4.25	伊藤芳浩(NPO法人インフォメーションギャップバスター理事長)「だいじょうぶ!一勇気を出せば、世界はもっと広がる」(フローラル出版)	当団体代表理事の中島が推薦文を寄稿致しました。
2025.10.10	エフエム世田谷「Bee Up! Setagaya」	当団体代表理事の中島が「Trash? or Treat? ~ゴミ?ごちそう?~ 2025」を告知致しました。
2025.12.13	テレビ熊本「若っ人ランド」	「チェンジメーカー・ミートアップ2025」の告知を放映いただきました。
2025.12.20	歴史地理教育2026年1月号(No.994)(一社)歴史教育者協議会)	当団体スタッフの広瀬が寄稿致しました。(記事内の「児童労働」の解説はこちら)
2025.12.31	教育ジャーナル Vol.31 2025年(株)Gakken)	第55回「博報賞」受賞(独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動領域)受賞団体としてテイク・アクション・キャンプの活動内容についてご紹介いただきました。

## 8.会議の開催

### (1) 総会

#### 通常総会(2025年度)

##### (ア) 開催日時及び場所

2025年3月16日(日) 13:00~(12:50受付開始)

会場: EF Tokyo/オンライン

##### (イ) 議題

1. 議長及び議事録署名人(2名)の選出、総会定足数の確認

2. 議案の協議決定

#### 第1号議案

2024年度事業報告書(案)と2024年度活動計算書(案)に関する事項

#### 第2号議案

2025年事業計画(案)と2025年活動予算書(案)に関する事項

#### 第3号議案

2023年財務諸表修正(案)に関する事項

### (2) 理事会

#### 第1回理事会

##### (ア) 開催日時及び場所

2025年 1月16日(木) 14:00~16:00 オンライン開催

##### (イ) 議題

#### I. 審議事項

1. 2025年度事業計画及び予算、役員と事務局体制

2. セーフガーディングに関する書類と体制について

#### II. 報告事項

1. 2024年度収支及び事業報告

#### 第2回理事会

##### (ア) 開催日時及び場所

2025年 3月16日(日) 16:00~17:00 オンライン開催

##### (イ) 議題

#### I. 審議事項

1. 代表理事、副代表理事長及び専務理事選任の件

#### 第3回理事会

##### (ア) 開催日時及び場所

2025年 9月30日(火) 11:00~12:30 オンライン開催

##### (イ) 議題

#### I. 相談事項

1. 人員体制について

#### II. 報告事項

1. 事業進捗及び、暫定収支活動報告の共有 / 関連資料I(会計資料)

2. 2026年事業について

#### 第4回理事会

##### (ア) 開催日時及び場所

2025年 12月16日(火) 19:00~21:00 オンライン開催